

情報交換及び地域の学習を通して、小中4校の望ましい連携のあり方を探る

I 主題設定の理由

同じ地域に学ぶ子どもの教育に携わるという立場で、共通課題を確認し、臨地研修・講演会・授業参観を通して系統的によりよい指導が行えるよう本主題を設定した。

II 研究の内容

1 第1回交流研究会（臨地研修）

- (1) 日時 平成27年8月7日（金）13：30～
- (2) 目的 地域の施設を見学して学習したことを、地域教材として授業に生かす。
- (3) 内容 山梨市根津記念館において、根津嘉一郎氏やその背景の文化・歴史に関する研修を行う。

2 第2回交流研究会（講演会）

- (1) 日時 平成27年11月11日（水）15：30～（於 山梨小学校）
- (2) 目的 児童生徒が抱えるストレスを理解し、その対処法について学び、指導に生かせるよう小・中が連携して取り組む。
- (3) 内容 演題「児童生徒が抱える日常生活のストレスの理解とその対処法について」を、講師に県総合教育センターの副主幹・研修主事である一瀬英史先生からお話していただく。

3 第3回交流研究会（日川小学校授業参観）

- (1) 日時 平成28年1月20日（水）14：00～
- (2) 目的 小学校の授業を参観し、小中の連携の視点から研究し、今後の教育活動に生かしていく。
- (3) 内容

- ア 授業参観 第1学年算数科（活用学習）
第5学年学級活動（学級力向上）

イ 交流研究会

- ・授業についての反省・感想
- ・授業についての質疑応答
- ・小・中学校の情報交換

II 成果と課題

1 成果

- ・臨地研修においては、「やまなしし出前講座」を利用し、根津嘉一郎氏の生家である根津記念館で、館内を巡りながら講師2名から詳しい説明をしていただいた。地域に偉大な功績をあげた方のいることを知り、その背景の産業や文化についても知識を得ることができた。地域教材として活用し、子どもたちに学ばせることもできることが確認できた。地域にありながらなかなか足を運ぶことができない教職員も多かったが、よい機会を得、また小中の教職員の交流ができてよかった。
- ・講演会では、県総合教育センター副主幹・研修主事の一瀬英史先生から「児童生徒が抱える日常生活のストレスの理解とその対処法について」という演題で指導していただいた。大人に限らず、最近増えつつある子どものストレスについて理解し、その対処の仕方についてわかりやすく説明していただいた。資料やワークシートを提供していただき、実際にその場で教職員もロールプレイをすることで、子どもの気持ちを理解することの大切さを学んだ。
- ・日川小学校の授業参観では、活用学習で1年生の算数科の授業1クラス、学級力向上で5年生の学級活動の授業1クラスを参観した。授業の進め方や手立て、教室掲示にも工夫が見られた。きめ細かい思考ステップを踏ませ、課題解決に向けて考えさせる授業、また児童の様子から4月からの積み重ねが感じられる授業で、小学校の教職員にとっても、中学校の教職員にとっても大変参考となる授業であった。授業後の交流研究会でも、全体の討議、小グループ討議で建設的な意見が出て、小・中の情報交換も有意義なものとなった。

2 課題

- ・今年度は小学校の授業の提供をしてもらったが、2クラスであったので、参観するのに教室内に入ることができない人もいたので、もう少し多くしてもらえるとありがたいという意見もあった。さまざまな学年の様子を知ることができるというメリットもあるが、その後の研究会が深まりのないものになるというデメリットもあるので難しいところである。
- ・講演会の中ではなかなか質問や意見は出にくいので、形式をさらに工夫していく必要があるかもしれない。
- ・小中の教職員が一堂に会する機会ではあったが、十分な時間がとれず、深まりのある話し合いまでいけなかったのが残念であった。小中で連携して取り組むことが望ましい子どもの育成につながると思う。今後、課題をもとに小・中同士で意見交換する機会が増えるとさらに効果的なものになると感じた。

(ブロック長 長嶋 明美)